

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果（公表）

公表:令和 5 年 4 月 14 日

事業所名 社会福祉法人 竹伸会 ひまわり教室 保護者等数(児童数) 6人 回収数 6 割合 100 %

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	66.6%	33.4%	0.0%	0.0%	・隣接しているこども園もある為、十分に思う。 ・活発に動くので少し狭く感じるが、様々な遊びを工夫していると思う。	・活動に合わせてスペースを確保しながら使えるよう工夫をしています。 ・活動の様子を玄関やHPに掲載しています。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・隣接されたこども園で、1対1のような丁寧な保育と支援をしてくれている。 ・ひまわり教室でも丁寧に職員がついていて安心できる。	・すべての職員が資格を持ち毎年研修を受けながら専門性を高めるようにしています。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境*1になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	83.3%	0.0%	0.0%	16.7%	・生活空間、物の配置など、子どもがちゃんと理解できているように感じる。	・身の回りの片づけを子ども達が自分でできるよう棚を設置し、シールや名前をつけて分かりやすいように工夫をしています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・改修工事が行われ、清潔に保たれていると思う。	・掃除を毎日行い清潔に保つようになっています。午睡に関しては、別の部屋の落ち着いた静かな環境で行っています。 ・空気清浄機や低濃度オゾン発生装置を配置し、清潔な空気を維持できるようにしています。
適切な支援の提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画*2が作成されているか	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・説明も懇談時に詳しく知らされている。 ・子どもの成長と保護者の意思に合わせた支援計画が作成されている。	・個人懇談において保護者の方と話をしながら支援計画書をもとに内容を確認し療育・保育を行なっています。
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		・前期と後期に分けて、支援内容を検討し計画書を作成しています。 ・個人懇談会の中で課題を見つたり、成長を確認したりしながら支援計画書の内容を検討し、決定しています。
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		・計画書に基づいて、毎日の活動の中で学びができるように遊びを通して保育・療育支援しています。
	8 活動プログラム*3が固定化しないよう工夫されているか	83.3%	0.0%	0.0%	16.7%	・季節ごとの行事やイベントなども取り入れ、工夫していると思う。	・前期、後期に個別支援計画書を作成し、毎週の計画案を基に職員が意見を出し合いながらいろんな活動を取り入れています。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・運動会や保育参観など、いろいろ子どものことを配慮してくださっていると思う。 ・隣のこども園と一緒に活動することが多く、良い刺激となっている。	・手先の活動としては、モンテソーリ教育を、運動面ではムーブメント教育を取り入れながらお子さんの成長発達につながるよう保育・教育・療育を行っています。 ・隣接するこども園の園児と交流できる環境を整え年齢別活動においては大きな集団で活動しています。
	10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	66.6%	16.7%	16.7%	0.0%		・重要事項説明書を見ながら説明を行っています。
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	66.6%	33.4%	0.0%	0.0%		・個人懇談で保護者の方に個別支援計画書を見ながら支援内容を説明するとき、ガイドラインに基づいて計画していることを話をさせてもらっています。

保護者への説明等	12	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング*4等)が行われているか	50.0%	16.6%	33.4%	0.0%	・子どもとの関わり方について発達に応じた助言などを頂いている。	・子どものいいところを褒めるポイントを個人懇談などで伝えています。小さな成長を発見し、保護者の方が前向きに子育てが出来るよう、家族支援を共に喜び合えるような機会を作っています。
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・送迎時や連絡帳を通して出来る。	・連絡帳でお子さんの健康状態や日々の様子を伝え合っています。また、送迎時にも、その日にあったことも伝えるようにしています。
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	・何か問題が起きたときや悩みなど、話を聞いてくれ感謝している。 ・定期的に面談を行なっている。	・年に2回、個人懇談会を実施し、お子さんの様子や悩みなどをお聞きしています。またその中での課題を確認し、話し合い解決できるよう助言したりしています。
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	50.0%	0.0%	33.4%	16.6%	・コロナ禍、個人情報保護の世の中なので仕方ないと思う。	・新型コロナウイルス感染拡大防止対策の為、今年度も開催することが難しかったですが、収束したら開催したいと思います。
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	83.3%	0.0%	0.0%	16.7%	・いつもしてくださっている。 ・相談に対して、可能な限り対応してもらっている。	・相談事に関しては、迅速に対応するようにしています。
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	83.3%	0.0%	0.0%	16.7%	・園の中でのことを話してもらったり、連絡帳に記入してくださっている。	・その日の様子などは連絡帳やお迎えに来られた際に伝え情報共有できるようにしています。
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	・楽しく拝見させてもらっている。 ・HPやお便りなどで活動概要などは発信されている。	・毎月お便りでお子さんの様子を伝えたり活動内容や行事をお知らせしています。 ・ホームページで自己評価の結果を公開しています。
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・封筒などに入れて配慮している。	・書面で了承を得ています。
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		・避難時のマニュアルについては、避難場所、訓練の様子を玄関の写真掲示でお知らせしています。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	83.3%	0.0%	0.0%	16.7%	・避難訓練の様子をお便りなどで伝えられている。	・避難訓練は、毎月に行い、地震や火事、不審者対応など想定して実施しています。
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・先生方のことが大好きです。 ・毎日楽しみに登園している。	・感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。
	23	事業所の支援に満足しているか	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・本当に満足、感謝しかありません。 ・細かい事も気にかけいただき、満足している。	・これからも保護者の皆さまと共に大切なお子さまをお預かりしながら、一生懸命に保育・療育・教育の支援を行っていききたいと思います。

*1 この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすること。

*2 児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成する

*3 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせる実施されることが想定されている。

*4 保護者が子どもの行動を観察して障がいの特性を理解したり、障がいの特性を踏まえた褒め方等を学ぶこと。子どもが適切な行動を獲得することを目指している。

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和5年4月14日

事業所名 社会福祉法人 竹伸会 ひまわり教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100.0%	0.0%	1日の利用人数を4名～6名とし活動スペースを確保しています。また小集団活動のほか、隣接された玉ノ江こども園と連携し、統合保育も行っています。	令和3年度に一部改修工事を行い、子ども達が活動しやすいようにスペースを確保しています。
	2	職員の配置数は適切である	100.0%	0.0%	子どもと個別に対応できるように、職員を配置しています。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	80.0%	20.0%	個別の備えを用意し、子ども達が自分で身の回りの片付けが出来る様に設定しています。	幼児用トイレの設置や、手洗い場の自動水栓を導入しています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100.0%	0.0%	食事のスペース、排泄のコーナーなど設定しています。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	80.0%	20.0%	年に2回、全職員で話し合う機会を持ち、園児の個別支援計画を立て目標を決め療育しています。半年ごとに中間見直しをし、アセスメントをし、ひとり一人に合った支援を行っています。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100.0%	0.0%	4月に保護者にアンケートをとり、子どもの姿、保護者の思いを確認し年間計画、個別支援計画を立てています。また個人懇談を行い、共に連携しながら療育を行っています。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100.0%	0.0%	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表をチェックし、事業所としての自己評価を行いました。項目について全職員で読み合わせ、話し合い結果を公表しました。	話し合いの中で、今年度の課題、目標を再確認し、改善に繋げていくようにしています。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	20.0%	80.0%	今年度は行なっていません。	第三者による外部評価を行っていないので、来年度に向けて検討していききたいと思います。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100.0%	0.0%	オンライン研修に参加し、職員間で情報共有し保育療育の向上に繋げています。	非常勤職員もオンライン研修なので勤務時間内に受講し共通理解できる様にしています。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100.0%	0.0%	「子育てファイルふくいっ子」と「ムーブメント教育のアセスメントMEPA-R」の判定を行い、子ども達の発達を捉えながらその結果を個別支援計画に活かしています。4月に保護者にアンケートを取り、ニーズを把握し個別支援計画に活かせるようにしたり、懇談も実施し、ひまわり教室での様子や家での様子を、保護者の方と共有しています。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100.0%	0.0%	「子育てファイルふくいっ子」と「ムーブメント教育のアセスメントMEPA-R」「福井市発達記録」の判定を行い、子ども達の発達を捉え、その結果を個別支援計画作成時に活かしています。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100.0%	0.0%	児童発達支援ガイドを全職員で読み合わせ、子ども自身の支援から家族を含めた支援までを考え、内容が適切であるかどうかを職員会議で検討しています。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100.0%	0.0%	年に4回、個別支援計画書を見直し、保育・療育を行っています。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	60.0%	40.0%	毎月の目標に合わせて、週案を立て、朝礼時に活動内容を確認しています。	さらに、月案検討会を実施するようにし、活動プログラムを見直し確認したいと思います。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	60.0%	40.0%	年間計画の中で一人ひとりの支援内容を活かせるように、毎月話し合いながら療育・保育を行っています。	月案検討会の中で、プログラムの内容を検討していききたいと思います。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成している	100.0%	0.0%	子ども達の利用日に合わせて、隣接された玉ノ江こども園での集団活動や、ひまわり教室での小集団による保育を行いながら個別活動が出来るように計画しています。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100.0%	0.0%	毎日朝礼にて、その日の行事や活動内容を話し合い、職員間で役割を確認しています。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	0.0%	100.0%	勤務が当番制の為、終礼に全員が揃わないので、朝礼時に振り返りや思ったことを話し合っています。	その日に終礼で話せるというのですが、勤務時間の時差があり、時間が取れないので翌日の朝礼で伝えています。連絡漏れのないようにホワイトボードに記入し全職員が見られるようにしています。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100.0%	0.0%	個人記録は複写式の連絡帳に記入し、全体の様子は週案に記録しています。	毎日、支援の検証・改善につなげるまで、職員が話し合う時間が取れないので何かあったときにはその場で伝えています。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100.0%	0.0%	個別支援計画は前期と後期、立てています。またその中間に見直し結果を記録しています。	
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100.0%	0.0%	会議の時は、担任と施設長が参加し、その内容は職員で、情報共有しています。今年度はオンラインで会議を行いました。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	80.0%	20.0%	特別支援センターと特別支援学校、療育センターと連携し、子どもの行動観察やアドバイスをもらっています。	職員が研修の機会として学びの場をいただいでいて子どもの支援にプラスになっています。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	20.0%	80.0%	医療的ケアが必要な子どもの在席はありませんが、重症心身障害児に関しては、こども療育センターの先生に子どもの姿を見て頂き、伝え合いながら連携支援に繋がりました。	子どもたちが就学予定の学校に教育相談を依頼し支援方法を確認しながら、よい支援が出来るようにしています。

関係機関や保護者との連携	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0.0%	100.0%	医療的ケアが必要な子どもの在席はありません。 救急カードがある子はコピーをとり、もしもの時にはすぐに電話、連絡出来る様にしている。	保護者を通して子どもの主治医と連絡が取れるように体制を整えています。そのため、発作や発達について分からないことがあると主治医に相談してもらい、その結果を教えていただいています。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100.0%	0.0%	・特別支援学校と連携し子どもの行動観察やアドバイスをいただいています。 ・隣接されたこども園とも連携しながら統合保育を行い、情報共有や相互理解を図っています。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100.0%	0.0%	5歳児に関しては、就学に繋げるために特別支援教育センター、特別支援学校、療育センターと連携し、良い支援出来る様にしています。 サマリーシートを使い、子どもの発達状況を把握し、移行支援会議で情報共有出来る様にしています。また、ふくいつファイルやMEPA-Rの評定用紙、個別支援計画書を元に学校と連携し、子どもの発達を把握できるようにしています。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100.0%	0.0%	定期的に行われる「福井市障がい児支援事業所連絡会」に参加し、他事業所との情報共有を行っています。また、発達障がい者支援センターの研修に参加し、職員の資質向上に繋げています。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	100.0%	0.0%	隣接された玉ノ江こども園に行き、集団保育が体験できるようにしています。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会館等へ積極的に参加している	0.0%	100.0%		機会があれば参加したいと思います。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100.0%	0.0%	送迎時や複写式の連絡帳を通して伝えています。また、懇談を実施し、家庭の様子やひまわり教室での様子を共通理解出来る様にしています。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	60.0%	40.0%	家族支援としては、個人懇談で課題を話しあったり悩みをお聞きしたりしながら良い方向に導けるようにしています。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100.0%	0.0%	重要事項説明書の内容について説明し、署名捺印を頂いています。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100.0%	0.0%	年に2回個人懇談を行い、個別支援計画書の説明をし、保護者の方に同意を得ています。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100.0%	0.0%	個人懇談にて、情報共有しています。また、子育て等の悩みや相談事がある時は、必要に応じて助言しています。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	20.0%	80.0%	以前は放課後等デイサービスと児童発達支援の保護者が話し合う場(おしゃべり会)を開いてましたが、現在はコロナウイルス感染拡大防止対策の為、行なっていません。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100.0%	0.0%	主に個人懇談の時に話をしています。保護者からの相談には丁寧に対処し良い方向性が見られるようにアドバイスを行っています。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100.0%	0.0%	毎月おたよりを発行し、普段の子どもの様子や行事などを知らせています。また、緊急の時には全利用者へメールで発信し、すぐに情報発信出来る様にしています。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100.0%	0.0%	HPで記載されている写真等は、事前に保護者に掲載の確認を取り、書面にて了解を頂いています。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100.0%	0.0%	障害児の親子教室を開催していましたが、現在はコロナ感染防止の為に行なっていません。保護者同士で話をする機会は今後収束したら行いたいと思います。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わった事業運営を図っている	20.0%	100.0%	地域住民を招待する行事は行なっていません。	
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	80.0%	20.0%	マニュアルに基づき、隣接されたこども園と連携しながら避難訓練や、引き渡し訓練を行い実際の災害に対応出来る様にしています。また、消防署の方にも来ていただき、アドバイスなども頂いています。その様子は保護者の方に写真などを玄関に掲載しています。	
非常時等の対応	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100.0%	0.0%	隣接されたこども園と連携しながら、定期的に避難訓練を行っています。火災訓練の他にも、地震、風水害、不審者を想定した訓練等も行なっています。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を把握している	100.0%	0.0%	てんかんや発作を持っている子には薬のファイルをばらけ、薬の情報や使用状況、医師からの処方箋を提出してもらい状況を確認しています。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	40.0%	60.0%	アレルギーを持っている子には、医師の診断書を提出して頂き、保育者と担任の懇談の中で対応法を決定しています。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100.0%	0.0%	ヒヤリハットを室内に貼っています。何かあれば日付、シール、その時の対応を書き、事故を未然に防ぐようにしています。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100.0%	0.0%	職員が研修に参加し、会議などで話し合ったり再確認したりしている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	80.0%	20.0%	現在は該当児はいませんが、必要な時には個人懇談の際に、どのような方法で行うのかを、個別支援計画書に記入し保護者に同意をもらって署名捺印を頂いています。	・保護者に相談、確認しながら組織全体で捉え、決定した際には説明して了解を得た上で個別支援計画書に記載しています。